

8 「情報化社会」という神話

建築ITコミュニケーションデザイン論 第8回

本江正茂

2014-06-04 (水)

情報化社会という神話

情報技術が社会を大きく変える！！ ホント？

- 技術と社会の関係は単純ではない。
- 30年前から、モデルチェンジしながら、ずっと同じようなことが言われている。
 - 『講座情報社会科学8 情報化社会論1 情報化社会の産業システム』学習研究社, 1971
 - 『ハイテクノロジーと未来社会』中山書店, 1984
 - 『テクノカルチャー・マトリクス』NTT出版, 1994
 - 『ソフトウェアの話』日経新書, 1971
 - 『高度情報化シリーズ1 高度情報社会の業際展望』大蔵省印刷局, 1985
 - 『高度情報化プログラム』コンピュータ・エイジ社, 1994
- cf. 佐藤1996, pp.31-36

情報化社会論の二つの系列

- 「ポスト近代社会」 vs 「ハイパー産業社会」
- 脱工業化 モノより情報
- 第三の波 もっと便利になる
- 近代社会の終焉 個人の時代になる
- 両者が矛盾したまま、存続していられるのはなぜか？
- 情報化社会の実体はあるのか？→ 存在しない。永遠に未来社会である。
- なんでもない=なんでもである！

ポスト近代社会論の大家：マクルーハン、ベル、トフラー

マーシャル・マクルーハン 1911-1980

- 『グーテンベルグの銀河系－活字人間の形成』原著1962
- 『メディア論－人間の拡張の諸相』原著1964
 - ホットなメディア：高精細で非参加的、一方向：ラジオ，活字，写真，映画，講演
 - クールなメディア：低精細で参加的、双方向：電話，話し言葉，漫画，テレビ，セミナー
- あらゆる技術は人間の感覚能力や運動能力の拡張。e.g.車輪＝脚の拡張
- メディア技術の変化による時代区分
 - 話し言葉の時代 local and synchronous, intimate
 - 活版印刷の時代 視覚の独立。黙読する活字人間＝共同体からの切断＝個人主義
 - 電気メディアの時代 主にテレビ。感覚と感覚の相互作用の回復。

- global village へ。

ダニエル・ベル 1919-2011

- 『脱工業社会の到来—社会予測の一つの試み』ダイヤモンド社、1975（原著1973）
- 中心的産業部門による時代区分
 - 前工業社会 農業、常識と経験、資源、伝統主義
 - 工業社会 工業、経験と実験、エネルギー、経済成長主義
 - 脱工業社会 サービス業 抽象的理論、情報、知識中心主義
- 「脱工業社会」への変化の5つの次元
 - 経済部門 財貨生産部門からサービス部門へ
 - 職業分布 専門職、技術職階層が優位
 - 社会の基軸原理 技術革新と政策決定のための理論的知識
 - 技術の成長 社会的に計画管理し、将来の方向付けのための技術管理・評価
 - 意思決定 知的技術を用いたシステム分析に依拠

アルビン・トフラー 1928-

- 『第三の波』中公文庫、1982（原著1980）
- 1.農業革命 一万年前
- 2.産業革命 19世紀
- 3.情報革命 1955-65 @USA
- ホワイトカラーがブルーカラーを上回る。
- prosumer = producer + consumer
- 中央集権的国家、マスメディア、マス市場の終焉

日本社会における「情報化社会論」の時期区分

1. 言説主導の「情報化」 1970年代

- 未来予測ブーム
- マクルーハンとベル
- 農 業 / 工 業 / 情 報 （ 梅 棹 忠 夫 ）
典型的技術決定論かつ経済中心主義かつ文明論的
- モノばなれ、コンピュータよりテレビ
- ※現代的な「情報化」の諸概念はこのころすでに発生していたが知られていなかった。
- e.g. ダウンサイジング、ネットワーク、マルチメディア、インタラクティブ etc.

2. システム中心の「情報化」と諸問題の顕在化 1980年代

- 「ニューメディア」ブーム。
- 中央官庁主導。
- 技術中心，ハード中心。自己目的化。
- e.g. キャプテンによる半端な予約システム
- ネットワーク的・分散的思考はない。

3. コミュニケーション中心の「情報化」 1990年代

- マルチメディアとインターネットのブーム

- CMCネットワークの現実的普及。
- パソコン通信, インターネット, iモード
- 全世界に情報を発信する個人=prosumer

イージーな技術決定論に陥ってはならない。

- 技術が社会を「情報化」するのではない。
- 技術は社会・文化によって選択されており、本質的には社会・文化に決定力がある。
- 情報化社会論の多くは「技術予測の名を借りた未来社会への願望にほかならない。」
- 本当の問題は、社会の変化が「技術の必然として語られている点にある。」
- 技術決定論は、社会の選択責任を隠ぺいし、責任回避の構造を生み出してしまう。
- e.g. こどもにケータイをあたえるな!, ゲーム脳

× 情報・メディア技術 → 情報化社会

○ 情報・メディア技術
↑ ↓ → 情報ネットワーク社会
社会・文化

知識

- 暗黙知と形式知 マイケル・ポランニー
- 野中郁次郎 SECIモデル
- 集合知 Collective Intelligence, The Wisdom of Crowds
 - 牛の重さを当てる
 - 1986のチャレンジャーの事故後、まだ原因が特定されていないのに、事故原因となった務品会社の株価が下がる
- Google Page Rank
- amazon おすすめ商品

ネットワークとコネクティビティ

- Web 2.0、MashUp、クラウド、Big Data...
- EPIC2014/2015
- Social graph
- べき法則、ハブ
- Internet of Things, social machine, Phigital physical + digital

参考文献

- 吉田純『インターネット空間の社会学：情報ネットワーク社会と公共圏』世界思想社、2000
- マーク・ポスター『情報様式論』室井尚+吉岡洋訳、岩波書店、1991
- 佐藤俊樹『ノイマンの夢・近代の欲望』講談社選書メチエ、1996
- 佐藤俊樹『社会は情報化の夢を見る--- [新世紀版] ノイマンの夢・近代の欲望』河出文庫、2010
- マーシャル・マクルーハン『グーテンベルグの銀河系－活字人間の形成』みすず書房、1986 (原著 1962)

- マーシャル・マクルーハン『メディア論－人間の拡張の諸相』みすず書房、1987（原著1964）
- テレンス・ゴードン『マクルーハン』宮澤淳一訳、ちくま学芸文庫、2001
- ダニエル・ベル『脱工業社会の到来－社会予測の一つの試み』ダイヤモンド社、1975（原著1973）
- アルビン・トフラー『第三の波』中公文庫、1982（原著1980）
- 古川一郎＋電通デジタルライフスタイル研究会編『デジタルライフ革命』東洋経済新報社、2001
- 公文俊平『情報社会学序説』NTT出版、2004
- マイケル・ポランニー『暗黙知の次元』ちくま学芸文庫、2003
- 野中郁次郎『知識創造企業』梅本勝博訳、東洋経済新報社、1996
- ジェームズ・スロウィッキー『みんなの意見は案外正しい』角川文庫、2009
- アルバート・ラズロ・バラバシ『新ネットワーク思考－世界のしくみを読み解く』NHK出版、2002
- 鈴木健『なめらかな社会とその敵』勁草書房、2013
- エリック・シュミット、ジャレッド・コーエン『第五の権力』ダイヤモンド社、2014
- MentionMapp <http://mentionmapp.com/>